

教育委員会の活動状況

点検項目	実績	成果と課題	R4評価	R3評価	R2評価
教育委員会会議等の実施状況	<p>【定例・臨時教育委員会】 開催回数: 定例会議 12 回 臨時会議 1 回 審議件数: 専決報告 0 件 議案 19 件 内可決 19 件 【総合教育会議】 2 回 【町教委学校訪問】 4校実施</p>	<p>【成果】 ・毎月、定例教育委員会を開催することができた。 ・事務局提案のみではなく委員からの協議事項の発議等、活発な意見交換が行われた。</p> <p>【課題】 ・教育委員の「学校訪問」への参加が難しいことがあった。 ・令和4年度の委員会の傍聴者が皆無であった。</p>	A	A	A
調査活動の状況等	<p>・全国町村教育長定期総会 (5月16日・17日) ・西濃地区教委連絡協議会総会・教育委員研修会 (6月10日) ・教育長及び教育長職務代理視察研修会 (中止) ・岐阜県市町村教育委員会連合会研究総会 (11月11日) ・町研究発表会 (福東小学校 11月17日) ・郡教育委員研修視察 (中止)</p>	<p>【成果】 ・6月10日開催の西濃地区教委連絡協議会総会・教育委員研修会を輪之内町文化会館で実施した。研修会では、輪之内町の地域学校協働活動について、田中俊弘輪之内町本部長と増田浩志仁木小学校長が講演を行った。輪之内町地域学校協働本部の立ち上げからこれまでの活動について発表し、多くの方に知っていただくよい機会となった。</p> <p>【課題】 ・町内小中学校の研究発表会の参観等を通して感じたことについて、意見交換をさらに行うことや、学力向上のために各学校の取組を支援できるような体制づくりをする。</p>	A	A	-

学校教育

◆各領域の評価は、町内教職員の評価を総合的に判断している。

領域	重点目標	成果と課題	R4評価	R3評価	R2評価
学校経営	全教職員が協力して活力ある学校経営をする。	○勤務時間カードを導入により、勤務時間をより正確に把握することができた。	A	A	A
		○勤務時間を意識し、働き方をマネジメントできるようになってきている教職員が増えてきている。 ▲時間外在校等時間(月45時間・年間360時間)を意識して勤務しているが、業務が多く守れないことがあるため、優先順位を明確にして業務にあたる。	84.1	82.6	81.1
研修	自己の課題を明確にし、主体的に研修を進め、確かな指導力を身に付ける。	○定期的に研修が計画されると共に、ロールプレイなど参加型にしたり、短時間でできるミニ研修にしたりして、内容や時間を工夫しながら効果的な研修を実施することができた。	A	A	B
		○保健安全面では、緊急の事態を想定して実践的な研修ができた。 ▲来年度より各学校に研修主事の配置が義務化される。研修主事を中心とした組織的・計画継続的な研修の実施をする。	80.0	86.9	71.2
教科指導	基礎的・基本的な知識・技能の習得を図るとともに、思考力・判断力・表現力及び自ら学ぶ意欲や態度を育て、学力向上を推進する。	○ICTを活用しながら、対話を通して児童の考えが深まるように交流の仕方を丁寧に教えたり、対話モデルを示したりすることができた。	B	A	B
		○全校研究会を中心的に、主体的に対話的な授業を目指し、指導案検討や、模擬授業などを行い、授業力の向上につなげることができた。 ▲教師が過過ぎず、児童が主体的に学ぶことができるようにする。(課題・まとめを児童の言葉で書かせる。)	73.4	81.5	69.7
道徳教育	自己を見つめる力と他を思いやる心を育てる。	○いのちの教育に関わり、外部講師を招いて授業を行ったことで、児童の心にひびく授業ができた。	B	A	B
		○道徳の時間だけでなく、一人一人が大切な存在であり、命が一番大切であることを様々な活動を通して子どもたちに伝えることができた。 ▲授業で学んだ価値項目について、日常で意識・実践ができているか見届けを行い、よさを広めていくことを全学年で実践する。	75.0	80.2	75.9
外国語活動	外国語に慣れ親しみ、コミュニケーション能力を高める。	○外国語専科と、ALTの連携がうまくとれており、子どもたちが主体的にコミュニケーションがとれる授業実践ができた。	B	A	B
		○パフォーマンステストを通して、一人一人の付けるべき力を把握し、指導に生かすことができた。 ▲外国語の授業中だけでなく、休み時間等にALTとの交流できる場を設定し、慣れ親しむ場を増やす工夫をする。	78.6	83.6	75.0
総合的な学習の時間の指導 (ふるさと教育・防災教育)	探究的な学習を通じて、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。	○総合的な学習を核とした、教科横断的な単元指導計画を作成することで、他教科で活用した知識を総合的な学習に生かそうという意識をもつことができた。	B	B	B
		○地域の保存会や専門的な方を外部講師による出前授業を位置づけ、深い学びができた。 ▲単元指導計画に探究の視点を取り入れる。	76.3	78.9	66.3
特別活動	所属感を高め、よりよい生活や望ましい人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。	○OQU検査の分析から、配慮すべきことを意識して指導ができた。	B	A	B
		○行事の願いをもつ場、問題解決の場、振り返りの場を設定し、自治力を高めることができた。 ▲自分のよさを話せる児童が少ないので、他人のよさを見つける活動を行いつつ、自分のよさを話さずすることができる機会も増やす。	77.4	84.3	73.1
生徒指導	共感的な児童生徒理解に徹し、よりよい人間関係の形成を図り、自己指導能力を育てる。	○打ち合わせで気になる児童の交流を取り入れることで、自分の学年だけでなく、他学年の様子を共通理解することができた。	A	A	A
		○アンケートにより、子どもたちの現状についてよくとらえることができた。教育相談も丁寧に行われ、困り感を小さい内に取り除くことができた。 ○「ぎふいのちの教育」について適時放送等で全校に啓発することができた。	82.8	84.1	81.4
キャリア教育	社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てる。	○消費者教育など、職業観を育成する体験活動が行われ、日常の指導に生かすことができた。	B	B	B
		○町探検や菊の栽培体験で、地域のことを知ることができた。活動を通して輪之内町のことに誇りをもつことができた。 ▲行事後に児童がキャリアパスポートを書いて終わってしまうことが何度かあった。自分たちの役割と勤労観や職業観を関わらせて、継続してキャリア教育を行えるようにする。	70.1	72.1	63.4